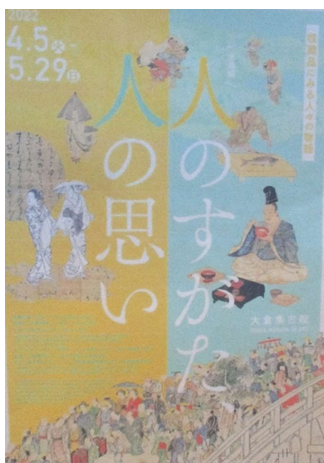


企画展 人のすがた、人の思い—收藏品に見る人々の物語—

大倉集古館（虎ノ門） 2022.04.05～05.29



「大倉集古館」は、明治から大正期にかけて大きな財を成し、大倉財閥を創始した「大倉喜八郎」（1837～1928）が長年にわたって収集した古美術・典籍類を収集・展示するため、邸宅の一角に1917（大正6）年に「財団法人大倉集古館」として開館したものである。

2019年には老朽化が顕著となり「ホテルオークラ東京本館」の建替えに沿ってリニューアルされている。

本展は、絵画、書跡、彫刻、工芸品、歴史資料を通して「女性にすがた」「思いに向き合う」、「名所に集う」、「民衆へのまなざし」の4つのテーマ「約25点」を設定し、人々がどのような姿や形、そして動きをしているか、そこからどのような思いが表現されているかを探っている。

鶴岡蘆水 《兩岸一覽》 折本 1781年刊



瀟水らしい素朴な描写に特徴がある隅田川の兩岸を描いた作品で、上帖は左岸で永代橋から両国橋上の雑踏を経て千住大橋辺の閑寂まで、下帖は右岸で浅草寺の遠景で、両国の雨や中州の花火、品川の海より遠望する富士山である。



久隅守景

重要文化財
《加茂競馬・宇治茶摘図屏風》



《木蘭誌凶衝突》部分

勇敢な女性木蘭の物語は、ディズニー・アニメ「ムーラン」のモデルとなった。